

ずっと 一緒にいたいから

犬の
慢性心不全
ガイド

...当院へお気軽にご相談ください...

NOVARTIS
ANIMAL HEALTH

製造販売業者
ノバルティス アニマルヘルス株式会社
東京都港区西麻布4丁目12番24号

監修：小山 秀一 先生
(日本獣医生命科学大学)

ノバルティスカスタマーサービス TEL 0120-162-419
月～金 9:00～12:00, 13:00～17:00 (祝祭日除く)

FTK-0812-56-GY

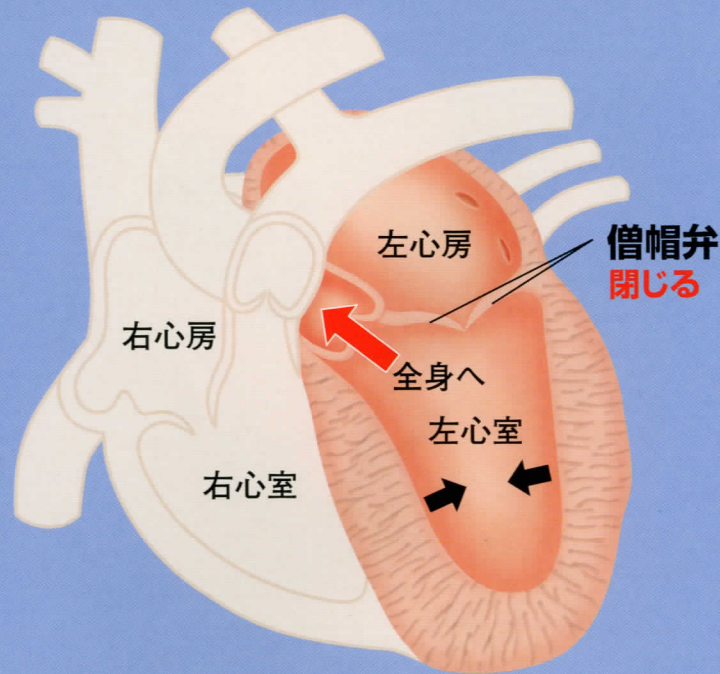
この小冊子はフォルテコール®錠フレーバーを処方された
ペットオーナー様へのお薬のご案内です。

フォルテコール®錠5mgフレーバー
フォルテコール®錠2.5mgフレーバー

……慢性心不全*はどうして起こるの？……

心臓のポンプ機能に障害が起こり、体に必要な栄養分と酸素を含んだ血液を全身へ十分に送り出せなくなった状態が慢性心不全です。多くの場合、心臓の中の弁がポンプのリズムに合わせて上手く開閉しなくなることが原因しています。

正常時の収縮期



心臓は4つの部屋から成り立っています。(左心房、左心室、右心房、右心室)

* 主に僧帽弁閉鎖不全症

心臓のポンプ機能障害

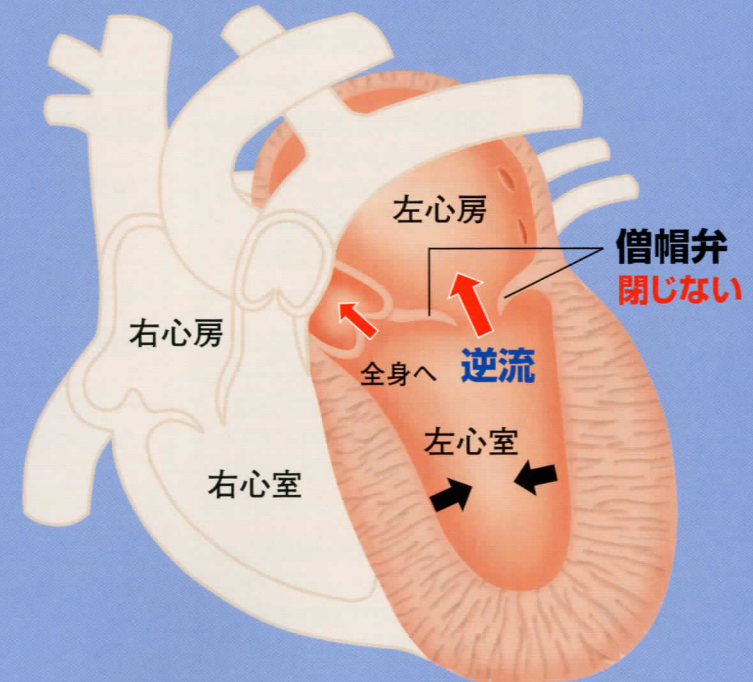
全身に送り出す血液の減少

心臓は正常時よりもたくさんの仕事を強いられる

弱った心臓に負担増加

慢性心不全
の悪化

例：僧帽弁閉鎖不全症時の収縮期



慢性心不全は早期発見・早期治療が大切です。

- 慢性心不全は発症初期には目立った症状がなく、徐々に症状が現われて進行していきます。

- 定期的に心臓の検診を受けて早期発見、早期治療を心がけましょう。

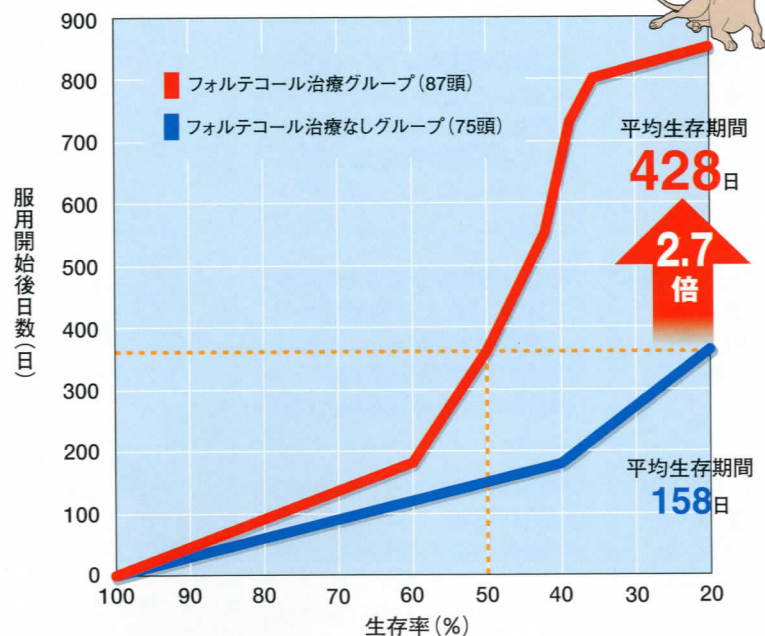
慢性心不全の重症度	主な症状	心臓の状態	治療	生活上の注意点	
発症初期	●目立った症状はないが、なんとなく元気がない。 ●疲れやすくなった。 ●呼吸が乱れやすい。 ●寝ている時間が増えた。	●軽度の左心房の拡大。	●フォルテコール (ACE阻害剤)*での治療。	●薬は毎日欠かさずに服用。 ●激しい運動は避ける。 ●軽い塩分制限をする。	 散歩に行きたがらない
軽度	●散歩に行きたがらない。 ●疲れやすい。 ●食欲が落ちた。 ●運動後又は興奮時に咳が出て、呼吸が乱れる。	●左心房の拡大。	●フォルテコール (ACE阻害剤) での治療、必要に応じて利尿薬を併用。	●薬は毎日欠かさずに服用。 ●激しい運動は避ける。 ●塩分の多い食事を制限する。 ●できるだけ興奮させないようにする。	 疲れやすい
中等度	●動くことをいやがる。 ●食欲がない。 ●運動しない時も咳が出て、呼吸が苦しう。 ●咳が止まりにくい。	●左心房、左心室の拡大。	●フォルテコール (ACE阻害剤) での治療。必要に応じて利尿薬、強心薬、気管支拡張薬、鎮咳薬を併用。	●薬は毎日欠かさずに服用。 ●日常生活上も興奮させ過ぎない。 ●塩分制限の徹底。 ●散歩は排尿、排便のみにする。	 食欲がおちた
重度	●ほとんど動こうとしない。 ●食欲がない。 ●一日中咳が出て、安静時も呼吸困難がみられる。 ●腹水。●失神。	●左心房、左心室がさらに拡大。	●フォルテコール (ACE阻害剤) での治療。必要に応じて利尿薬、強心薬、気管支拡張薬、鎮咳薬を併用、増量。	●薬は毎日欠かさずに服用。 ●絶対安静。 ●塩分制限の徹底。	 咳が出る

* フォルテコール (ACE阻害剤) : 血管を広げて血液を流れやすくし、心臓の働きを楽にします。また、体にたまった水分を排出することで、むくみを取りのぞきます。

フォルテコール®(ACE阻害剤)は 慢性心不全に対して延命効果が認められています。

慢性心不全の犬に対する試験において、フォルテコールで治療を受けたグループとフォルテコール治療を受けなかったグループを比較しました。その結果、フォルテコールで治療を受けたグループは受けなかったグループより2.7倍の延命効果がありました。また、フォルテコールで治療を受けたグループの治療開始1年後の生存率は50%でフォルテコール治療を受けなかったグループの生存率20%を大きく上回りました。

フォルテコール®による
慢性心不全を発症したワンちゃんへの延命効果



The Bench Study Group: Journal of Veterinary Cardiology, 1(1), 7, 1999

ワンちゃんの慢性心不全は
早期発見、早期治療がいちばんです。
定期的に心臓の健康度をチェックしましょう。
また、症状がなくても毎日様子をみて
もしも次のようなことがみられたら、
早めに検診を受けましょう。



散歩に行きたがらない



疲れやすい



食欲がおちた



咳が出る

..... 慢性心不全の予防法はあるの?

慢性心不全は先天的、後天的の場合があり、確実な予防法はありません。早期診断による早期治療が、症状を悪化させない最大のポイントです。原因としてはさまざまな要因が考えられます。さらに憎悪させる因子として、感染症、貧血、不整脈、食塩や水分の取りすぎ、激しい運動、ストレスなどが考えられています。また、犬種では小型犬やトイ種に多く見られ、中型犬、大型犬でも見られます。年齢としては、中年齢から高年齢にかけて最も多く発症します。

慢性心不全の代表的疾患	発症しやすい犬種	発症年齢
僧帽弁閉鎖不全症	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	若年齢から
	チワワ、ミニチュアダックスフンド、トイプードル、マルチーズ、ヨークシャテリアなど	中年齢から高年齢
拡張型心筋症	ドーベルマン・ピンシャー、ボクサー、ゴールデン・レトリバーなどの大型犬種	中年齢